

高松市生涯学習センター 生涯学習カレッジ（社会生活に役立つ講座）

『組手障子』の技法で作る組手箸置き」を開催しました。

令和3年3月26日（金）、組手障子職人 網 一郎さんを講師に迎え、香川の伝統工芸『組手障子』の技法で作る組手箸置き」を開催しました。

香川の伝統工芸「組手細工」とは、数ミリほどの木片を、釘を使うことなく組みつけることで、さまざまな幾何学模様を作る建具の技法のひとつです。講師の網 一郎さんは、伝統的工芸品展にて「組手細工」に出会い、繊細な幾何学模様の美しさに魅了され、転職を決意し、弟子入りをしたそうです。



講座では、組手障子の技法を使った箸置きを2個作りました。まず、小さな木片の角に丸みをつけるために、のみや紙やすりを使って面取りをします。小さな木片ですが、すべての木片を仕上げるためには、かなり根気が必要です。



次に、木と木を組み合わせていきますが、うまく入らないときは切れこみの位置がずれているそうです。今回はあらかじめ用意していただいた木片ですから、必ずびたりと組み合わせられます。木と木がびたりと組み合わせられた時の達成感は本当に気持ちのいいものです。

すべての木片を組み合わせたら、高さが均一になるように微調整をして、全体に紙やすりで磨きをかけて、仕上がりです。

小さな箸置きですが、この作品の中に職人の技がたくさん盛り込まれていました。

講師の網さんの話では、道具の手入れはもちろん、不具合などもすべて自分で直すことも職人の技の一つだそうです。また、上手に作業するために工夫された道具もあり、普段見ることのできない職人の世界を知ることができました。

今回作った箸置を通して、香川の伝統工芸のすばらしさを実感した講座でした。

